

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

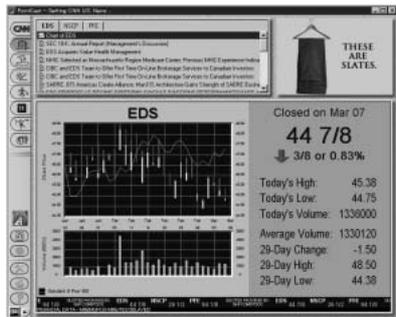
新たな情報ディストリビューター 「ポイントキャスト」日本上陸

2月17日、ポイントキャスト社の日本法人設立が発表された。インターネット初のプッシュ型情報サービスとしてアメリカで成功を収めたポイントキャストが国際事業展開の第一歩に日本を選んだ。パートナーはトランスコスモス社。ポイントキャスト60%、トランスコスモス40%の3億円の資本金のもと「ポイントキャスト株式会社」が4月にも設立される。日本版ポイントキャストの登場は、日本のニュースサービスにどんな影響をもたらすだろうか。

編集部 / 錦戸陽子

プッシュ型のしくみと アメリカ版のコンテンツ

インターネットでニュースを読もうとする
とき、これまではユーザーが自ら目標とする
情報のある場所にアクセスしていた。これに



天気予報から株価情報まで好みのチャンネルを選んで
情報を見る。

対し、ポイントキャストでは、インターネット
に接続されたパソコンに向けてブロードキャ
ストセンターからニュースを送り出す。こ
のしくみにアメリカの大手メディアの多くが
コンテンツプロバイダーとして参加した。ア
メリカ版では、ロイター通信、S & P com
stock、Sports Ticker、Accuweather から
のニュースが提供されるほか、CNN、
CNNfn、ニューヨークタイムズ、TIME、
People、ロサンゼルスタイムズ、Wired など
のチャンネルがある。ポイントキャストは
広告収入で運営されており、ユーザーはこ
れらのニュースを無料で読むことができる。

テレビのような形態だが、既存のテレビ
と違うところは、情報チャンネルをカスタ
マイズできることだ。用意されたチャンネルの
中からユーザーが自分にとって必要なテーマ
だけを選び、ブロードキャストセンター側か

らは選ばれたチャンネルの分だけ情報を更新
して送り出す。このしくみを使って特定の
企業の株価を表示するサービスもあり、96
年2月に発表されたポイントキャストは1年も
たたないうちにアメリカで100万人以上のユ
ーザーを獲得してしまった。

日本の新聞社は 配信技術に興味

ポイントキャスト日本版の開始について日
本のニュースメディアはどう見ているのか。
すでにインターネットで記事を提供している
新聞社に聞いたところ、実際に参加するか
どうかは未定だが、各社ともニュース配信技
術としての有用性は認めている。すでにオン
ラインサービスのしくみを整えている日本の
新聞社は、インターネット上で新しい情報流
通のしくみが増えたときすぐに相乗りでき
るだけのシステムを持っている。ビジネスとし
てメリットが感じられれば、新しい流通チャ
ネルが加わることは歓迎すべきことなの
だ。

これはデジタル広告に熱心な広告会社も
同じで、サイバーコミュニケーションズ取締
役の番匠博隆氏は「プッシュ型のテクノロ
ジーはテレビスポットと同じ形態なのでわか
りやすく、広告として受け入れられやすいの
ではないか」と日本版への期待を語る。

WWW サイトから情報を送る 拡張機能も発表

しかし、ポイントキャストのコンテンツプロバイダーは、今後、大手のメディア企業にとどまらないだろう。日本版のコンテンツが一切明らかにされなかった記者発表から約1か月後、新たに発表された拡張機能「Point Connection」は、WWW サーバーの情報をインターネット利用者のパソコンに送り出すことができるものだ。つまり、既存のWWW サイトすべてがポイントキャストのチャンネルのひとつになり得るのである。この機能はポイントキャストより先にマイクロソフトも発表しており、次ページで詳しく紹介しているインターネットエクスプローラ4.0に搭載される予定だ。

常時接続で可能になる

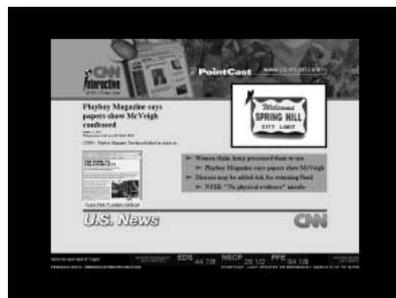
ニュースの未来形

インターネットブーム以前、速報や検索機能など紙では得られない付加価値が必要になったとき、利用者は高い料金を承知でパソコン通信にアクセスし、電子情報を得ていた。インターネットブームが起こり、新聞社が無料で提供したWWW サイトは毎日読める「電子新聞」としてオンラインニュースを身近なものにした。第三のサービスである電子メールのニュース配信は、特定のテーマに限られたマーケットであるが、複数の出版社や新聞社が事業化している。

これらのサービスとポイントキャストのようなプッシュ型との違いは、インターネットに常に接続しているかどうかでユーザーのメリットが大きく変わることである。何もなくても必要とする情報が随時流れてくるとい

うサービスは、通信回線の価格が下がることによって定着し、多くのシステムの登場によってより洗練された形に進化していくだろう。

インターネット上のコンテンツをいかに統合し、ユーザー個々の希望に応じてパソコンへ送り出すのか。そんな未来型の情報サービスがよいよ始まる。その先に待っているのは、コンテンツそのものの淘汰の時代かもしれない。



パソコンを操作しないときにスクリーンセーバーが立ち上がり、ニュースが流れてくる。

米ポイントキャスト社 太平洋・アジア・ラテンアメリカ担当 / 副社長 ダグラス W.C. ボーク氏に聞く

来日した同社の副社長 **ダグラス W.C. ボーク氏**に2月18日にインタビューし、日本版開始に向けての現状を聞いた。ポイントキャスト株式会社の設立はこれからだ。

Q：日本の市場に合わせた特別なコンテンツ戦略はありますか。

D：ポイントキャスト側でどのコンテンツがいいかということは細かく考える必要はありません。ほしい情報は視聴者がトピックを選んで決めるからです。ですから、日本版もアメリカ版と同様、できるだけ多くの人に重要な情報を多様なチャンネルで用意することが重要だと思っています。



Q：無料で情報を提供することに対して日本のニュースメディアの抵抗はありませんか。インターネットを使って有料で速報を流しているメディアもあります。

D：ポイントキャストは真の意味での実時間

サービスではないので情報は随時更新されていけばいいわけです。メディア側がインターネットから収益を得たいと考えているのは当然で、現在はインターネットでどんなビジネスが展開できるかを模索している段階だと思います。ポイントキャストは広告によって無償のネットワークを提供しますので、配信コストを安く抑えて多くの利用者に情報を届けられます。



Q：ポイントキャストでは広告の価値も重要ですが、メリットは何ですか。

D：重複しない個別の人がどれだけ広告を見たかということの詳細なレポートにして広告主に提供しています。



Q：日本版サービス開始までのスケジュールを教えてください。

D：提供したいサービスのイメージはできあがっていて、日本法人を設立して3か月ぐらいの間に具体的なコンテンツの準備、広告主の開拓、放送センターの構築をやらなくてはなりません。サーバーソフトの販売も行っていますが、それは今年の後半になると思います。



「質の高い情報が無料で提供されるのが日本のユーザーにとってのメリットだ」と語るダグラス氏。

WWWブラウザとデスクトップが統合した インターネットエクスプローラ4.0公開せまる

インターネットの使い方をがらっと変えてしまいそうな、マイクロソフト社のインターネットエクスプローラ4.0の発表が近づいている。英語版が3月下旬に、日本語版が4月中旬にそれぞれマイクロソフト社のホームページからダウンロード可能になる予定だ。マッキントッシュ版もそれほど期間をおかずに発表される。

編集部 / 倉園佳三



○タスクバーに埋め込まれたURLの入力ボックス。

○ローカルのデータとウェブページを同時に表示する。

このバージョンのコンセプトは、ローカルのハードディスクにある情報を閲覧することと、インターネットを利用してさまざまな情報にアクセスすることとをできるだけ同じような操作で行えるようにするというのである。次期バージョンのウィンドウズ97のシェルとして採用されるインターネットエクスプローラ4.0は、単なるWWWブラウザではなく、デスクトップと完全に統合された、情報のステーションとして機能するのである。

「Active デスクトップ」と名付けられた新しいウィンドウズのシェルは、これ自体がWWWブラウザであり、ローカルのファイルや設定画面、そしてウェブページなど、あらゆる情報を表示できる。デスクトップ上のアイコンもウェブページのリンクと

同様に扱われるために、アプリケーションはダブルクリックではなく、シングルクリックによって起動できる。ウィンドウズの「エクスプローラ」では、左ペインにハードディスクの中身を表示したまま、右ペインにFTPサーバーのファイルを表示して、あたかも自分のコンピュータにあるファイルを操作するかのように、ドラッグアンドドロップでこれをコピーできる。ほかにも、ニュースのヘッダーを流せるタスクバーや、ウェブページを壁紙やスクリーンセーバーとして表示する機能など、この環境ではローカルの情報とインターネットの情報との間に境界線は存在しないのである。

WWWブラウザの新機能として最も興味深いのは、スマートフェイスと名

付けられた「頭のいいお気に入り」である。お気に入りに登録されたウェブサイトの更新状況を知らせてくれるほかに、ローカルへの自動録画もできる。新しいHTMLとしては、アニメーションやインタラクティブな仕掛けをスクリプトやActiveXコントロールを使わずに作成できる、ダイナミックHTMLをサポートする。操作性もよりシンプルになり、一度アクセスしたページのURLを自動入力できるオートコンプリート機能やプロキシの自動設定機能などが加えられる。

同梱されるコンポーネントは、「アウトLOOKエクスプレス」(電子メール)、「ネットミーティング」(リアルタイム会議)、「ネットショー」(動画再生)、「フロントパッド」(HTML文書の作成)などがある。このなかのアウトLOOKエクスプレスは、画像や音声などのオブジェクトを含むHTML形式のメールを送受信でき、新たにフォルダービューウィンドウが追加されたほか、LDAPやIMAP4という新しいプロトコルもサポートする。

今回発表される4.0の次期バージョンでは、「チャンネル」というサーバプッシュによるコンテンツの配信機能が加えられる予定だ。これによって、ユーザーのデスクトップにはいつでも自分のほしい情報だけがあるという環境ができる。ウェブコンテンツは「見に行く情報」から「やってくる情報」へと変わることになるだろう。プッシュ型情報システムの先駆けであるポインキャストもこの「チャンネル」の1つとして統合される予定である。

それにしても、「ウィンドウズ97」で初めてコンピュータにさわるという次世代のユーザーは、デスクトップ=インターネットという環境からスタートすることになる。21世紀のインターネットに、今のわれわれの想像もつかないようなアイデアを持ち込むのは、実はこの世代の幸運なビジネスマンなのかもしれない。

Network インターネットに
携帯電話で常時接続
NTTドコモ「Dopa」開始

NTT 移動通信網 (NTT ドコモ) は、無線でインターネットに接続するための通信サービス「DoPa」を開始する。最大通信速度は28.8Kbpsで、接続時間によらず情報量によって課金する料金体系のため、常時端末を回線接続できるもの。3月下旬から東京・山手線内のエリアからサービスを開始し、97年度末までには東名阪地域および政令指定都市まで拡大する予定。インターネットに接続するためには、Dopaと接続しているプロバイダーと契約する必要があるが、プロバイダー数社の採用が予定されており、今年夏頃から利用可能となる見込み。

問い合わせ NTT 移動通信網 (株)
TEL0120-728-360
URL <http://www.nttdocomo.co.jp/>

Service 毎日新聞社が
選抜高校野球大会を
インターネットで中継

毎日新聞社は、3月6日に「センバツ」ホームページを開設し、第69回選抜高校野球大会の全試合をリアルタイムでインターネット中継する。技術協力は日本サン・マイクロシステムズとNTTデータ通信で、カウントやスコアなどの表示にはJavaを使用し、映像の再生にはVDOLiveを使用する。

URL <http://senbatsu.mainichi.co.jp/>



「センバツ」ホームページでの中継画面

Service INKTOMIと共同開発した
日本語検索エンジン「goo」
NTTアドがサービス開始

エヌ・ティ・ティ・アドは、日本語でホームページの検索ができる商用日本語検索エンジン「goo」のサービスを開始する。米国INKTOMI社の検索エンジンにNTTヒューマンインターフェイス研究所が開発した日本語処理技術「InfoBee」を統合したもので、通常のキーワード検索のほか、文章や人名などでも検索できるのが特徴。また、検索した結果の絞り込み機能や、表示形式もユーザーが自由に選択できる。

URL <http://www.goo.ne.jp/>



画像や音声ファイルの検索もできる goo

Law 文化庁の著作権審議会が
審議経過を報告
著作隣接権の規定に言及

文化庁はデジタル化やネットワーク化の進展に伴って生じた著作権上の諸問題について審議検討している「著作権審議会マルチメディア小委員会」の審議経過報告を公表した。これは、昨年12月、WIPO (世界知的所有権機関) で新条約が採択されたことを受けて見直し案を作ったもの。同報告では、インターネットなどによる「リクエストを受けて行う送信」について、実演家・レコード製作者の権利を著作権法に規定することが適切と示した。また、これに関連して、著作権法の「送信」の概念にサーバーなどで著作物を「公衆に提示される状態に置くこと」も含めることが必要とした。さらに無線による「リクエストを受けて行う送信」も有線と同様に扱うことが適切だと言及している。

Service ビジネスマン向け
「Business Network」
NTTデータ通信が開設

NTTデータ通信は、ビジネスマン向けに情報を提供するインターネットサービス「Business Network」を開設した。サービス内容は製品カタログ、会社情報、ニュースリリース、実用リンク集、出張手配などで、電子新聞、書籍案内、イベント案内なども予定している。今後はイントラネットとの連携で企業単位での利用を前提としたサービスや、業界・職種に特化したサービスへと分化させていく予定。

URL <http://www.businet.ne.jp/>



企業内個人を対象にした情報サービス

Service 雑誌の記事情報
「neta・マガジンスクエア」
試行サービスを開始

日本トータルシステムデザイン、NTT、NTTアドの3社は、雑誌などの出版物情報をインターネット上で提供する「neta・マガジンスクエア」の試行サービスを開始した。利用者が登録したキーワードに関連する記事が掲載された出版物の情報をメールで知らせるサービスなどを提供する。試行サービス期間中の利用は無料だが、今後は事業化への方向を検討していく。

問い合わせ neta・マガジンスクエア事務局
webmaster@neta.or.jp
URL <http://www.neta.or.jp/>



雑誌の記事がカテゴリー別に紹介される

Service 富士写真フイルム デジタル画像対応の 「メディアラボ」を展開

富士写真フイルムは、デジタル画像出力サービスなどを行う「メディアラボ」を全国11か所に開設しているが、さらに今年夏までに15か所をオープンして全国展開を進める。メディアラボではフロッピーディスクやMOなどのデジタルメディアから写真・印刷物を作成するサービスや、写真の高画質デジタルプリントサービス、合成・修整などの画像加工サービスなどを提供して、デジタル時代の新しい映像サービスのビジネスを提案していくのが狙い。また、インターネットやパソコン通信により伝送された画像を保管したり、写真のCD-Rへの書き込みなどを行う「デジタルイメージングサービス」もサポートする。このサービスは今秋の開始を予定している。

URL <http://www.fujifilm.co.jp/medialab/>

Event 越智ブラザーズのNY公演 インターネットで放送 J-Wave が制作支援

オーロラサイケデリカなどのパフォーマンスが話題となったパーカッションスト、越智ブラザーズ（越智義朗、義久兄弟）のニューヨークライブがインターネット上で公開されることになった。4月10日から13日までニューヨークのラ・ママ劇場で行われるライブパフォーマンスの様子をビデオ収録し、インターネット上で見られるようにするもので、公開期間は4月20日から約1か月間。サーバーはPSI Net社が提供し、インターネットライブの制作を支援するエフエムジャパン（J-Wave）のホームページからジャンプできるようにする。

問い合わせ デジタルスタジオpad
TEL 03-5604-8351
URL <http://www.infojapan.com/JWAVE/>

Event 電子広告のコンテスト 「朝日デジタル広告賞」 第一回の入賞作が決定

朝日新聞社が主催する「朝日デジタル広告賞」の入賞作が決定した。「一般公募の部」には国内外から126作が寄せられ、グランプリの受賞作はなかったものの、特別賞として凸版印刷をはじめ3作が受賞した。全受賞作は「アサヒ・コム」(<http://www.asahi.com/>)上で発表されており、受賞作を収録したCD-ROMも発売する。

問い合わせ 朝日新聞広告開発部電子メディアチーム TEL 03-5540-7212



日比野克彦氏や森田芳光氏も審査に参加した

Commerce 通産省ECプロジェクト 「メディアポート名古屋」が 4月1日実験スタート

通産省電子商取引実証実験プロジェクトの1つ「メディアポート名古屋」が4月1日からスタートする。中部地区のカード会社から物流業者までを結び、百貨店街、銀行街、予約街などでバーチャルタウンを構成。ミリオンカードが発行する専用のクレジットカード「メディアポート名古屋サイバーカード」を使ってショッピングや予約ができる。また、住民登録すると、欲しい情報の配布や、配送情報照会などのサービスも利用できる。

URL <http://www.cjn.or.jp/mpn/>



実証実験用のクレジットカード

Commerce 三菱商事が 電子商取引システム 「JapanNet」スタート

三菱商事はインターネット上の安全な電子商取引のためのインフラを開発する「JapanNet」プロジェクトを開始した。これは、通産省電子商取引実証推進事業プロジェクトの1つ。認証システムは、RSA公開鍵方式やMISTY暗号鍵などを採用し、クレジットカードでの決済も可能。同社では、電子ショッピングをインターネット上で行う企業や個人に対して、企業間取引や企業・生活者間の取引のインフラとして「JapanNet」のシステムを提供していく。

問い合わせ 三菱商事(株)マルチメディア事業推進部 JapanNetプロジェクト推進事務局
TEL 03-3210-9491
URL <http://www.JapanNet.or.jp/>
E-mail webmaster@japanet.or.jp

Commerce 「UCサイバーネット」 商取引実験拡大 マスターカードが公認

UCカードの電子商取引実証実験「UCサイバーネット・プロジェクト」が、決済プロトコル「SET」のバージョン1.0に準拠したものとしてマスターカード・インタナショナルに公認された。同プロジェクトは昨年6月に開始し、30店舗が参加する「UCサイバーモール」でのショッピング代金をネットワークを通じてクレジット決済するもので、現在1万人規模で実施しており、6月には10万人に拡大する予定。日本版SETの「SECE」を含んだ仕組みとなっている。アジアでのマスターカード公認第一号となるが、近く台湾でもSET実験が開始され、将来は安全に国際的な取引も行えるようにしたいとしている。

URL <http://www.uccard.co.jp/>
URL <http://www.mastercard.com/>

Product 世界最小サイズの
液晶デジタルカメラ
NECが発売

NECは液晶モニター搭載機としては世界最小サイズのデジタルカメラ「Picona」(ピコナ)を発売した。撮像素子は約35万画素で、充電式電池のほかに単3アルカリ乾電池での動作も可能。また、HTML形式のファイルを作成する機能があり、WWWブラウザで撮影した画像を見ることができる。カメラ本体の価格は69,800円

で3月14日より発売。
問い合わせ NECコン
インフォメーション
センター
TEL 03-3452-8000
(東京)



片手での操作性にこだわった
「Picona」

Product WWWブラウザも付いてる
32Kbps対応の通信端末
東芝「GENIO」を発売

東芝は、インターネットに接続できる通信端末「GENIO」(ジェニオ)を4月25日にオープン価格で発売する。「GENIO」は、32KbpsでPHS公衆回線よりダイヤルアップ接続ができる。WWWブラウザはHTML2.0をサポートし、手書きのメッセージもMIME形式で添付して電子メール送信が可能。

問い合わせ (株)東芝パーソナル情報機器事業部
TEL 03-3457-2612
URL <http://www.toshiba.co.jp/genio/>



「GENIO」PCV100

Product 電話回線で最高56Kbps
日本モトローラが
「ModemSUFER 56K」発表

日本モトローラは、56Kbpsの伝送速度をサポートするモデム「ModemSUFER56K」を発表した。コンピュータからインターネットへは33.6Kbps、インターネットからコンピュータへは最高56Kbpsの伝送速度で通信が可能になる。また、フラッシュメモリーを内蔵し、ソフトウェアのアップグレードで新機能を追加することもできる。

問い合わせ 日本モトローラ(株)情報システム事業部
TEL 03-5487-8562 (代表)



「ModemSUFER 56K」の日本での発売日は未定

Product ニフティのメールも使える
「クラリスメール1.1」
7月に発売

クラリスはMacintosh用電子メールソフト「クラリスメール1.1」を7月に発売する。複数アカウントをサポートし、EUDORA Proのニックネームファイルをアドレスブックに取り込むことができる。また、インターネットメールのほかにニフティサプのメールを送受信することが可能。対応機種は68030以上のプロセッサ搭載機種で、漢字Talk7.5.1以降のシステムが必要。

問い合わせ クラリス株
FAX 03-5210-9022



「クラリスメール1.1」

Technology ストリーミング技術の
普及促進を目的に
SMIP準備委員会が発足

次世代インターネット上でのアプリケーションおよびネットワーク技術の普及促進を目的とした組織「ストリーミング・メディア・イニシアティブ・プロジェクト」(SMIP)の準備委員会が発足した。SMIPは、音声や動画をユーザーへストレスなしに提供するストリーミング技術の普及と、そのコンテンツに付随するさまざまな権利に関する問題を解決していくことが主目的で、4月中旬の正式発足を目標としている。準備委員会はWIDEプロジェクト、住友商事、大日本印刷、日本シスコシステムズ、ダブの5企業・団体が構成され、アドバイザーとして慶應義塾大学助教授の村井純氏と、音楽家の坂本龍一氏が参加している。

URL <http://www.stream.ad.jp/> (予定)
FAX 03-5219-6025

Technology インターネットでTV番組の
録画ができる標準規格策定
イージーインターネット協会

インターネット家電の普及を目指すイージーインターネット協会は、「インターネット家電サービスにおけるテレビ番組情報の標準」規格を策定した。この規格をスタンダードとして確立することで、インターネットテレビなどインターネット家電のユーザーはインターネット上で提供されるテレビ番組情報を利用して、番組視聴予約やVTRの録画予約などができるようになる。また、放送時間が変更された場合でも録画予約を保証するサービスも可能となる。このほか、テレビ番組表をインターネット家電上で時間別、ジャンル別に表示したり、付随する情報を検索したりできる。

問い合わせ イージーインターネット協会事務局
TEL 03-3442-9531
E-mail karai@po.globe.or.jp

3つの顔をもつ男

Progressive Networks Chairman and CEO ロブ・グレイザー

2月11日にリアルビデオを発表したプログレッシブ・ネットワークス社の会長兼CEO ロブ・グレイザー氏。彼を知らなくてもリアルオーディオを知らない読者は少ないだろう。リアルタイム音声再生ソフト、リアルオーディオの発表から約2年という長い時間を経て完成したリアルタイム映像再生ソフト「リアルプレーヤー」は、インターネットの歴史に革新的な息吹を吹き込んだといえる。そんなロブ・グレイザー氏が日本での新製品発表会のために来日した。インターネットブロードキャストの伝道師であり、リアルビデオの開発者、そしてプログレッシブ・ネットワークス社のCEOという3つの顔をもつ彼に話を聞いた。

Photo by Atsushi Miyashita · Interview & Text 編集部

FACE1：リアルビデオの開発者

編：リアルビデオについてのご自身の評価と感想をお聞かせください。

R：2年前に開発したリアルオーディオの時と同じようにとてもエキサイティングな気持ちです。



編：完成度に満足していらっしゃるんですね。

R：私は満足するということが決してない性格なんですよ(笑)。しかし、今の時点での自分の評価は良いです。つまり、これでイン

ターネットを利用したビデオが初めて一定のレベルに達して、さらに良くなっていく可能性を示したということです。たとえば、2年前にリアルオーディオをリリースしたときは、すばらしいものができたと皆が宣伝して使ってくれました。おかげでソフトはどんどん改良されて現在のクオリティーになりました。もちろん、既存のラジオ放送に代わるものではありませんが、シンクロナイズド・マルチメディアなどの機能を使うことで、ラジオではできないこともできるようになりました。また、ライブ放送だけでなく、オンデマンド放送や世界中の放送を聴けるようになり、プ



ログラムに双方向性が加わり、カスタマイズもできるようになりました。初期のリアルオーディオの音質はあまりいいものとは言えませんが、このような数々のメリットがありました。

今のリアルビデオはその時と同じ段階と言えるでしょう。画面サイズではテレビにはかないませんが、テレビの画面が映画のスクリーンより小さいからと言って文句を言う人はいないでしょう。それは、テレビにはテレビのよさ・家庭に置いていくつもチャンネルがある・があるからです。インターネットでのビデオにもそういった意味での独自の存在理由があるのです。



編：よく「カクテルパーティー・テスト」という言葉を口にしますが、今回のリアルビデオは、そのテストに合格したと言えますか？

R：「イエス」です。ただし、リアルビデオの説明をするわずかな時間をもらえればですが。



編：と、言いますと？

R：ニュースショーやスライドショー形式の音楽番組を見なければ28.8Kbpsのモデムでもきくと満足できるでしょう。少し待ってもよいのならば、パッパード・プレイという機能も使えますね。しかし、ISDN回線もしくは56Kbpsモデムを使っているのならば、どんな内容の番組でも満足して楽しめるでしょう。と説明させてもらえば、期待は裏切らないと思います。

いつも、注意していることですが、私たちは28.8Kbpsのモデムを利用する場合と、ISDN回線を利用する場合の用途を明確に伝えることにしています。機能の限界をユーザーに伝えるとともに、映像の作り手たちにそのメディアに合った素材作りを心がけてもらっているからです。以前、リアルオーディオが14.4Kbpsのモデムに対応していたときは、肉声にはよいけれども音楽にはあまり向いていませんと言っていたんですよ。



編：今回のリアルビデオは、ユーザーのネットワーク環境が64Kbpsになる時期を見込ん

でのリリースだったのですか。

R：必ずしもそうとは言えませんが、聞くとところによると、世界で日本ほどISDNが普及している国はなく、私たちのユーザーの25%がISDN経由で接続しているそうです。まだ、過半数にはおよばないものの、新しく始まったOCNサービスとともに、ユーザー環境が良くなってゆくことは重要なことです。



編：VDOLiveやStreamWorksなど、他社のビデオ再生ソフトについてコメントを頂けますか？

R：私自身は、リアルビデオは違ったカテゴリーのソフトウェアだと考えてます。かつて、リアルオーディオを発表した時にはその類のソフトウェアは存在しませんでした。その後、追従するソフトウェアも出てきたし、いきなりビデオ再生ソフトを開発するところもありました。ウェブサイトの数でもインターネットでのオーディオの分野はかなり大きなマーケットとなってきましたが、ビデオはまだまだです。でもインターネットの外ではビデオはオーディオよりもはるかに大きなマーケットです。アメリカ人がラジオを聴く時間は平均1週間に15時間。テレビの場合は22時間だそうです。インターネットの世界でもビデオをラジオと同じぐらいのマーケットにすることが私たちのチャレンジと言えるでしょう。リアルビデオは、リアルオーディオの機能を引き継ぎ、失われたパケットの再送、エラー補正で優れた機能を発揮するとともに、ユーザーが回線の状況に応じて受信方法を選べるようにしてあります。リアルビデオが現在で最高のビデオ再生ソフトであることは過去2年間のリアルオーディオでの成果の表れなのです。



編：リアルビデオの特徴ともいえる画像と音声の同調メカニズムについてお聞かせください。

R：ビデオとオーディオには時間情報が記録されており、再生ソフトのシステムに同期メカニズムを埋め込んでいます。普通はオーディオを基準にして同期をとるので、コンピ

ュータの動作が遅い場合は音声はそのまま、画像のコマを落として再生されます。この技術はわれわれ独自のものです。

FACE2：インターネットブロードキャストの伝道師

編：リアルビデオのコンテンツの充実という点でも気を配っておられるようですね。

R：コンテンツは最も重要だと考えています。たとえば、コンテンツを運ぶソフトウェアは「電気」のようなもので「必要なもの」ですが、ユーザーは気にしなくてもよいものです。つまりコンテンツが面白くなければソフトも普及しないのです。そういう意味でもコンテンツの充実が最重要と考えています。今回私たちは、坂本龍一さんや、ドリームス・カム・トゥルーに協力することを発表しました。アメリカでは、映画監督のスパイク・リー（マルコムXなどの監督）が、リアルビデオ用に特別のフィルムを撮影してくれました。技術とコンテンツクリエイター、そしてユーザーからなるこのピラミッドをうまくまとめあげることが重要なことです。



編：アーティストにとっても新たな表現の場を提供したことになりますね。

R：そうですね。思いもつかなかったリアルビデオを使った創造的な利用法が出てくるでしょうね。たとえば30分以上のコメディやドラマ、映画などは販売のチャンネルが明確となっておりますが、今回のスパイク・リー監督の映画のように5分前後の短編フィルムの市場は今までありませんでした。しかし、リアルビデオにより、こうした短編フィルムがインターネット上でしか見られない新たなメディアとして成長してゆく可能性も出てきたのです。実際、スパイク・リー監督のフィルムは、リリース後2週間で10万人以上が視聴したのです。

FACE3：プログレッシブ・ネットワークス社長兼CEO

編：今後についての質問なのですが、リアルメディアのディレクターサービスの予定はありますか？

R：私たちが現在行っているタイムキャストは一種のディレクターサービスですが、日本でもプログレッシブ・ネットワークス社の日本法人が中心となって同様のサービスを行う予定です。



編：気が早いのですが、次回のバージョンアップの予定は？

R：まだ、最新バージョンを出したばかりですからね（笑）。ただ、今回は音質・画質のクオリティを向上させるのはもちろんですが、ユーザーが求めているものを楽に探せたり、他のメディアと連動させたりする機能を拡張していくと思います。なにしろ、私たちの会社には有能なエンジニアが大勢いて、この先5年分のアイデアを蓄えているので、できるだけ早くそれらを実現してゆこうと考えています。



編：ところで、個人的な質問になりますが、好きな音楽や映画があったら教えてください。

R：好きなバンドは「R.E.M.」です（笑）。15年近くもクリエイティブでいられること自体賞賛に値します。それと、オーストラリアのバンド「ミッドナイト・オイル」のコンサートはもっとも興奮したライブとして記憶に残っています。

映画はスタンリー・キューブリック監督の「ドクター・ストレンジラブ」（1963年）ですね。「2001年宇宙の旅」ほど有名ではありませんが、ブラックユーモアやテンポなどが非常にセンス良くて、とても30年以上前の作品とは思えませんよ（笑）。

ニューヨーク出身、現在35歳の彼の笑顔はとても印象的だった。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp